

保	育	の	父	・	佐	竹	音	次	郎	に	学	ぶ	会	★	通	信
	音	次	郎	会	◆	I	N	F	O	◆	v	o	l	.	2	6

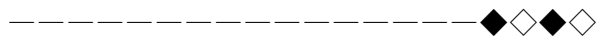
ホームページ：<https://otojiro.link>
eメール：info@otojiro.link
取引銀行 幡多信用金庫 下田支店 普通預金 88502
(名義) 保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会 会長 中平菊美
ゆうちょ銀行 振替口座 01650-8-43162
(名義) 保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会

先日、朝日新聞の全面広告で横山大観の掛け軸（複製品）が1本11万円で通信販売されていました。音次郎の事業資金捻出のために揮毫を寄付した彼の作品が、現代でもこれほど価値あるとされている事に改めて驚かされました。

地震、戦争、物価高……歴史は繰り返す事を痛感させられております。ごぶさたしました。保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会（通称：音次郎会）から皆さまに会報（メールマガジン）をお届けします。

◆◇ INDEX ◇◇

- 【1】史料読み解き学習会の報告
- 【2】奉加帳レプリカ制作中
- 【3】小学校4校への卒業記念品贈呈
- 【4】幡多信用金庫下田支店が閉店する



【1】史料読み解き学習会の報告

会報前号から今号までに2回の読み解き学習会を開催しました。これは、整備された史料を用いた学習会を充実させるという年度計画に基づくものです。

学習会も形になってきて3回目までは学習会の中で自力で読み解いていましたが、専門的な内容で参加者全員が読み解きする事は古文解説が苦手な方に苦痛をしいる事になります。4回目からは地方文書学習会のメンバーにご協力いただき、事前に解答を持った上で開催するようにしました。この為、開催の準備に時間がかかり、開催頻度が下がっております。

10月に行った第4回では音次郎の晩年、これまで牽引してきた児童福祉事業をどう継承していくか、後継者について音次郎が考えを述べている音次郎信書を読みました。

採り上げた手紙は、鎌倉保育園の海外支部が旅順支部からはじまって各国へと広がる中、乾綾雄氏に将来的に通訳として就任してもらう為に親戚筋なども含めて丁寧に交渉している内容のものでした。中平会長から乾氏と鎌倉保育園との関わりや、その後の事について解説がありました。結果的に乾氏は家庭の事情等により鎌倉保育園を早期退職して中村へ帰ります。

乾氏は音次郎の伝記2冊と、漢詩の研究本を自費出版されました。今回、解説した手紙によって、乾氏が何故ここまで漢詩に拘ったのかが分かるようになりました。同時に、音次郎が日誌を漢文で書く事に取り組んでいた事も、状況的に理解が進みました。

当日は乾綾雄氏が音次郎子孫に贈呈した慈善書画会の作品を展示しました。その書画は昨年、その子孫から音次郎会に贈呈された貴重なものです。作者は奉加帳にも名前がある方でした。また、当日は乾氏のお孫さんも遠路、駆けつけてくださいました。

12月には第5回を開催しました。この内容は今号の別冊読み物シリーズ15をご参照下さい。次回の日程が決まり次第、お知らせします。ぜひご参加ください。

◆◆◆◆

【2】奉加帳レプリカ制作中

保育の父・佐竹音次郎の「鎌倉保育園 慈善書画会賛助 芳名簿」は昨年8月に原本と活字版を見開きにした見やすい Mix 版を音次郎会ホームページに公開しました。また、前号にて全体の賛助者概要をお伝えしました。

2冊の奉加帳に名を連ねる錚々たるメンバー652人（第1回 459人、第4回 192人）の躍動感溢れるサインをより多くの人に見て頂けるように、なるべく実物に近い複製版（レプリカ）を制作中です。

明治40年頃の文献ですのでレプリカ制作手法を確立するためには多くの困難があり、また完成にも多難を要しますが少しずつ完成に向かって進んでおります。

繰り返しになりますが、現在、570人までしか判読できず、残り82人が難しい崩し字などで、その人物が誰なのかが判りません。特に第4回奉加帳には読めない人物が多く存在しています。その中の1人でも、「誰なのか？」分かった場合、また、読み間違っているのでは等の御指摘があれば音次郎会まで御一報くだされば助かります。よろしく願いいたします。

◆◆◆◆

【3】小学校4校への卒業記念品贈呈

今年も音次郎ゆかりの4校に卒業記念品として「万人の父になる－佐竹音次郎物語－」（横山充男著）を贈呈しました。今年で4年目の取り組みです。

3月22日金曜日、竹島小学校は14名が卒業しました。音次郎は養子先が夫婦不和となり実父によって生家に呼び戻されました。そして少しの期間だけ開校したばかりの竹島小学校に通わせてもらい、後に助手として務めました。竹島小学校の卒業生にとって音次郎は彼らの大先輩になります。贈呈役は中平菊美会長が担当しました。

同日、下田小学校は6人が青春の海原へとこぎ出しました。下田は大正時代まで港町として県内でも屈指の栄えた港でした。音次郎の時代、中村から県内外に出掛ける時は必ず下田港の航路を利用しました。渡辺誠監事が担当。

同日、八束小学校では13人の児童が新伝記を手にししました。八束は、音次郎が鍋島小学校の教師となり自立するようになったので、八束村名家の分家の婿として迎えられた場所です。小椋茂昭副会長が担当。

3月21日木曜日、中村小学校40名に卒業記念品贈呈をしました。事務局・瀬戸雅弘が担当。
中小は音次郎が7歳で紺屋町に養子に出された翌年、開校しています。音次郎は中村小学校第1期生だった可能性があります。途中で竹島に戻りましたので幻の卒業生となりま

